

ながら、気温を高める時期である。もはやグローバル恐慌に突入していると言われる中、問われているのは人々の「変革」への決意ではないか。一人ひとりがその生活・人生のあり様を「人間的」に変革する決意

こそが、政治や経済を動かす決定打である。来る労協連30回総会では、地域・市民への呼びかけとしての「政策」を提起する予定である。

■ 研究所だより

榎本 木綿

東京の桜も満開を迎えましたが、今年は一足先に愛媛で山桜を楽しむ機会がありました。

「田舎で働き隊！」です。この事業は農山漁村の活性化とその担い手作りを目的に田舎暮らしに関心のある都市住民と農山村を交流させるという、いわば人材マッチングの仲介支援です。参加研修生は20代から60代まで、いわゆるニートやフリーターと呼ばれる若者もいれば、リタイアしたシニアの方もおられ、私も祝日などを利用し、一部日程に参加してきました。

私が参加したのは愛媛県久万高原町です。全14カ所の研修受け入れ先はさまざまですが、久万高原町では法制化の自治体行動から出会った町役場が中心となり、町の皆さんのご協力で林業や農業、森林管理の現場やグリーンツーリズムのイベント、シンポジウムなど、さまざまな研修内容を組んでくださいました。

久万高原町は2004年に4町が合併し誕生した町で、人口は1万600余名、高齢化率42.5%という急速に過疎化が進む地域です。面積の大半を森林が占めるこの地の基

幹産業は旧来より林業でしたが、他の地域同様、外材流入や木材価格の低迷などの影響を受け、後継者も乏しい状況です。地域に高等教育機関や安定した仕事の場が少ないため、合併を機に若い人たちは車で小一時間ほどの距離にある松山市内へ流出し、ある集落では80戸あった世帯が3戸にまで一気に減少したそうです。市町村合併を契機に瞬く間に人や土地の空洞化を招き、さらにそれが村の空洞化を招く。集落が壊滅するということを実感させられました。町に残ったお年よりたちの「仕事さえあえば」というつぶやきが耳に残ります。

しかし、こうしたなかでも久万では自治体や地元企業が中心となりIターンやUターンを受け入れる取組みもしています。今回の研修先である町営農支援センターや林業の(株)いぶきなどでも、新規就労者の受け入れのためのさまざまなサポート(農業では研修補助金支給、林業では月給制・諸手当の充実等)を行い、地域での雇用を少しでも創出して若い層を定着させようとはがんばっています。集落営農も率先して取り組み、気候を生かした高原野菜や低農薬の

特別米の栽培、果樹観光農園や市民農園、地域名産品の開発なども行っています。また、地域から出る廃材の杉皮を農業用培地として活用するなど地域循環型の環境保全を考えた取組みも行われ、そこから新しいビジネスチャンスや高齢者、障がい者の雇用機会にも広がる可能性があります。しかし、こうした試みをしてもお、地域を活性化することは容易ではないそうです。

いま、非正規労働者の雇い止めなどにより急増する失職者や就労に困難を抱える若者に対し、第一次産業での雇用の受け皿が話題となっていますが、やはりこうしたマッチングは一朝一夕にはむずかしいことも実感しました。時間と中間支援組織のような存在が必要です。

では、中山間地域の持続可能性はどこにあるのでしょうか？ 先日参加した小田切徳美先生(明治大学農学部)の講演会では中山間地域の再生で重要なこととして、地域資源の発見や活用、住民が活躍できる場づくりなどととも、何よりも住民の地域への「誇り」を挙げられていました。

今回の参加者のように田舎での新しい可能性を考える人たちをどんどん巻き込み、その人たちが持つ外部の価値観や視点を取り入れて、地域に眠る資源を顕在化し、活用方法を一緒に考える。それには制度ととして自治体が支援する枠組みも必要でしょう。しかしなにより住民が主体となり、持続可能な方向を模索し、地域社会を変えて

いこうと努力し続けることこそが住民が誇りを取り戻し、また地域が持続可能な状態であり続けられることなのかもしれないと感じました。その点で、今の久万高原町はとても可能性を持つ地域だと思います。

前述の小田切先生も含め、協同総研では5月、6月と農・林業などに関連した研究会やシンポジウム、講演会を行います。どの回もたいへん有意義なものです。ぜひ皆さんご参加ください！

.....
5月16日(土・13:30~16:30・労協連本部大会議室)

「中山間地域の再生と協同労働の可能性」
小田切徳美先生(明治大学農学部教授)

6月6日(土・13:30~14:10・山形大学農学部大講義室)山形大学・協同総研共催
ミニシンポジウム「農林業の非営利事業体による仕事と地域づくり」

6月27日(土・時間会場未定)
協同総研総会記念講演
「協同の労働と連帯の哲学-誇りある働き方・生き方を地域から創る-(仮)

内山 節氏(哲学者・NPO森づくりフォーラム代表)
パネルディスカッション「協同労働の協同組合~法制化時代の可能性と期待」(仮)

.....